

小学校1年生～3年生の部

* 作品は原文のまま掲載しています。

宮城県知事賞

交通ルールを守ろう

柴田町立槻木小学校 三年 木村 心 美

わたしの子ども会では、毎年春休みになると、交通安全教育が行われます。けいさつかんの方と校長先生と登校はんのみんなといっしょに、交通ルールをかくにんしながら学校まで、歩いて行きます。この交通安全教室で、わたしが交通ルールについて学んだことが四つあります。

まず一つ目は、道ろではぜったいに走ったり、ふざけたりしないということです。もし道ろでいきおいよく走ってしまうと、車が横から出てきた時に、急に止まらなくてぶつかってしまうきけんせいがあるからです。また、お友だちといっしょに、道ろでふざけてしまうと車がきたことに気づかずに、ぶつかってしまうからです。

二つ目は、歩いている時に、急に止まらないということです。もし、歩いている時に、急に止まってしまおうとわたしの後ろを歩いているお友だちに、ぶつかってしまうからです。

三つ目は、道ろにとび出しをしないことです。もし、急に道ろにとび出してしまおうと、スピードを出してきた車に、とばされてしまうからです。交通事故のげんいんは、ほとんどが、とび出しであることが分かりました。また、小さい子どもだけではなく、おとしよりも多いそうです。ほとんど車が通らない道が、とくにあぶないとけいさつかんのの方が、教えてくれました。わたしの家の前は、車がほとんど通らないので、わたしも気をつけたいです。

四つ目は、しん号きが青になっても、すぐにわたらないことです。もし、赤でギリギリに横だん歩道をわたってしまうと、車が来た時に、ぶつかってしまうからです。そうならないためにも、しん号きが青になっても、すぐに歩き出さないで、

「右を見て」
「左を見て」

「もう一ど右を見て」を合言葉に、車や自てん車がこないことをかくにんして、手をあげてわたることを交通安全教室で学びました。

さい後に、交通安全をへらすためにわたしが考えたことは、自分が交通ルールのきちゃんと守ることや相手に気を配り、ゆずり合うことです。当たり前のことですが、これができれば、かならず交通事故はなくなるはずなんです。もし、交通事故を起こせば自分も相手もかなしくなり、わるいことばかりです。だれもがづらい思いをすることがないように、交通事故がゼロの町にしていきたいです。

宮城県警察本部長賞

わたしのだいじなヘルメット

仙台市立上杉山通小学校 一年 すわべこはる

わたしは、ヘルメットをかぶるのがにがてです。すきなかみがたがでないし、ベルトもきらいです。

わたしは、ほいくえんのとき、いつもおかあさんのじてんしゃにつていました。わたしがいやだといっても、おかあさんはシートベルトもヘルメットもぜったいにつけました。わたしは、さいしょヘルメットがいらないうちにおもっていました。でも、ヘルメットはぜったいいるとわかりました。

それは、4さいのとき、こおっているみちで、ころんだときにわかりました。おかあさんはじてんしゃからとんでつたし、わたしはじてんしゃにつたままたおれました。びっくりしてないでしまいました。でもわたしはヘルメットもシートベルトもちゃんとしていたので、いたいところはなかつたし、おかあさんもヘルメットのおかげであたまのけがはありませんでした。

そのときからわたしは、じぶんでヘルメットをつけるようになりました。

いまわたしは、じてんしゃにのるれんしゅうをしています。のるようになったらいろんなところにおでかけするのがたのしみです。そのときもぜったいにヘルメットをわすれません。

おとなもこどもも、まだヘルメットをつけてないひとがいるので、みんながヘルメットをつけてじてんしゃにのってほしいです。

わたしのヘルメットはピンクのはながらでおきにいらいます。かぶるのはにがてだけど、わたしをまもってくれるのでたいせつにつかいます。

仙台市立南小泉小学校 三年 角田 元輝

「ヘルメットをわすれないで。車はどこから走って来るか分からないからね。」

ぼくが自てん車にのつてピアノ教室に行ったりする時、お父さんとお母さんのには理由があります。ぼくは、少しうるさいなあとありますが、うるさ

いのは朝、お父さんは、高校一年生の時、自てん車で学校に通っていました。

ある夏の朝、お父さんはいつも通り自てん車をこいでいて、気づいたらブ

ックベいにとんで行つて体をうち、自分の血が地面にゆつくり広がるの見

たそうです。お父さんは、止まれのひょうしきがある道で、一ど止まりまし

そがだ、左の細い道から来た遠くの黒いタクシーを見て、このきよりなりけ

る手は、お客さんを見てはい、お父さんに気づかなかつたそうです。その運

お父さんは、内ぞうはいつ、お父さんに気づかなかつたそうです。その運

す事も、家ぞくのれんらく先を教える事もできず、朝食べた物をはき、血が

止まりませんでした。だから、手がきゆうきゆう車をよび、びよういんでお父

んは手じゅつをつえました。手じゅつはせいこうしたけど、体がいたくて

「こんなにつらい目にあうならしにたい。」

と思つたそうです。また、まわりの人が、

「これは助からないな。」

と言つてゐるのを聞いて、ぼくのやさしいおばあちゃんはとてもつかっ

たそうです。

た。ぼくは、この話を聞いて、ふるえて、おなかがいなくなつた気がしまし

は、お父さんの事とお父さんのおなかには、きずがないと思います。ぼく

つけない、と思ひます。

お父さんは、「止まれ」で止まった。交通ルールをまもらなかつたわけでは

ないのに事にあつてしまいました。交通事故にあわないようにするにはど

うすればいいのかな。

道路は、歩道がなくたり、しん号がなくたり、石が落ちていたりして

あぶない所がたくさんあります。ぼく出ている所があつて、ぼくは、細い道があ

ります。その道は、草が道路にとび出ている所がなくて、そこでは、車の運

で、草をさけて車もさけなければいけません。そこで、ぼくは、道をゆづ

手の目を見ながら、ゆつくり走ったり、ときどき止まつたりして、道をゆづ

りあいます。ぼくは、

「止まつてくれ、頭を下げるものがあります。」

と言いつつ、

道路では、交通ルールをまもりながら、む理をしなない、早めに行動する、

相手を思つて行動する事が大事だと思います。

ぼくのお父さんは、道路にだれかがころびそうな石が落ちていたら、はし

っこにずらします。ぼくもお父さんのまねをしたいなあ。

登米市立浅水小学校 三年 二かいどう 湊

ぼくの小学校では、四年生になると自てん車登校が出来るようになります。

前にいちどだけ、お父と学校までの道のりを、自てん車にのって行った事があります。

その時に感じた自てん車登校で気をつけたい事をいくつか話したいと思います。

一つ目は、自てん車せん用道ろがあるところでは、そこを走るようにすることです。学校の近くには自てん車せん用道ろがあるのに、それに気づかず車道走ろうとしているところをお父さんに教えてもらいました。車道を走るより安全なのでせん用道ろを走りたいと思いました。

二つ目は、スピードの出しすぎには気をつける事です。下りざかではスピードをおとさないと急ブレーキでころんでケガをしてしまったり、細い道ろや曲がり角で車が来た時にブレーキが間に合わなくてぶつかるかもしれないからです。きけんな目に合わないようにはスピードの出しすぎには気をつけないです。

三つ目は、自てん車の交通ルールをおぼえることです。自てん車には交通ルールがあり、ルールを守ることで安全に自てん車にのれるからです。自てん車にのる時はヘルメットをつける、自てん車は左がわを走る、二れつになつて走らない、などがありますがまだ知らないルールがたくさんあるので自てん車登校する時までもつとルールをおぼえたいと思いました。

この三つのように自てん車にはいろいろなちゅう意があるから、それに気それに気をつけてこれから自てん車にのりたいです。みなさんも自てん車にのる時には気をつけて下さい。

小学校1年生～3年生の部

* 作品は原文のまま掲載しています。

宮城県PTA連合会長賞

大きくした自てん車

美里町立不動堂小学校 三年 岩 渕 六花子

わたしは、今年、新しい自てん車にのり始めました。今までの自てん車より、少し大きくなったので、バランスを取るのが少しむずかしかったり、ペダルをこぐのに、少し力を出したりするようになりました。自てん車が大きくなったので、学校で教わったルールを思い出していることにしました。

一つ目はヘルメットをきちんとかぶることです。ヘルメットをかぶらずに、自てん車にのると、ころんだときに、頭に大けがをしてしまうからです。そうやってしまうと、友だちや、家族のみんなが心配する、それと自分がきずついてしまうからです。

二つ目は、自てん車のベルの使い方です。わたしはあまりベルを使いませんが、みんなは使うそうです。ベルは、人によけてもらうなどに使うそうです。でもお年よりの方などはすばやくよけられないので、ベルは使わずに、自てん車からおりて、自てん車をおして歩きます。

そして三つ目は、自てん車にのるときのあい言葉についてです。そのあい言葉は：「ぶたはしゃべる」です。そのぶたはしゃべるは、自てん車にのる前のでんけんです。自てん車のすみずみまででんけんして、のったときに安全かどうかたしかめます。「ブレーキ」はちゃんときくかどうか、「タイヤ」はしっかりと空気が入っているか、「ハンドル」は上から見たとき、まっすぐかどうか、「車体」は自分が自てん車にのったときのイスの高さがあっているか、「ベル」はしっかりと音がなるかどうか、たしかめます。自てん車にのるときにかならずやります。

そのほかにもわたしがいつもやることがあります。ぐん手をする事でハンドルから手はなれにくくなります。あと、水分ほきゅうをしないと、あつくて死んでしまいます。なので、自てん車が終わったら水分を取ります。自てん車は、楽しいけれど、きけんなこともあるので、気をつけて自てん車を楽しむようにします！

わたしが今、自てん車でいきたい所は、そ山公園の近くのカブトムシ採集です！わたしは自てん車が大好きです。なので、もっと自てん車が上手になれるように練習がんばります！

作文の部 応募作品数

小学校1～3年生の部 21作品

小学校4～6年生の部 40作品

中学校の部 37作品

合 計 98作品